

令和8年度 第1回多治見市福祉施設指定管理者候補団体選定及び評価委員会議事録

日 時：令和8年7月14日（火）

10:00～12:00

場 所：多治見市役所駅北庁舎4階大ホール

出席委員： 海老諭香委員長、田口美穂副委員長、澤村壽委員、成瀬悦子委員、松田久和委員、水野琢也委員
(50音順)

欠席委員： 久野智治委員

事務局： 金子市民福祉部長、杉村こども健康部長、島津福祉課長、南谷高齢福祉課長、虎澤こども家庭課長
福祉課 金子、水野恵、水野ひ、高齢福祉課 三浦、こども家庭課 小久保、加藤、加納

1 あいさつ

2 自己紹介

3 議題

令和8年度（令和7年度分） 福祉施設に係る指定管理者の評価について

事務局	金子市民福祉部長あいさつ 委員委嘱 会議の成立 委員自己紹介 事務局側の出席者紹介 委員長・副委員長選出（委員長）海老委員 （副委員長）田口委員
委員長	会議の開催に当たって、会議の公開・非公開について決定したいと思う。 公開・非公開については、委員長が委員会に諮って決定することとなっているが、決定にあたり事務局の意見を求める。
事務局	委員による評価の全体審議については、率直な意見の交換等に支障が生じるため、非公開が適切だと考える。それ以外については、公開が適切だと考える。
委員長	事務局意見を踏まえ、評価の全体審議のみを非公開、それ以外を公開することにしたいと考えるが、意見があれば発言願う。
委員	(意見なし)
委員長	特にご意見がないようなので、このとおりとする。では、資料の確認、本日のスケジュール、審議に当たっての注意事項等を事務局から説明願う。
事務局	(資料の確認、本日のスケジュール、審議に当たっての注意事項等説明。)

議題 令和8年度（令和7年度分） 福祉施設に係る指定管理者の評価について

委員長	それでは、議題 令和8年度（令和7年度分）福祉施設に係る指定管理者の評価について検討する。 総合福祉センター、サンホーム滝呂、ふれあいセンター姫、かさはら福
-----	---

事務局 委員長 指定管理者 委員長	祉センターの評価案について、事務局から説明願う。 (事務局説明) それでは、指定管理者に入室いただく。 (多治見市社会福祉協議会 入室) 総合福祉センター、サンホーム滝呂、ふれあいセンター姫、かさはら福祉センターの指定管理業務について指定管理者の多治見市社会福祉協議会から説明願う。
指定管理者 委員長 委員	(指定管理者説明) ただいまの説明について意見や質問はあるか。 近年、人口減少とデジタル化が進み、外出しない方も多くなってきている中で、評価基準に利用者数の前年度比が評価の一部になっていることが気になる。来館者が多ければ評価が良いのか、評価基準が時代とずれているような気がする。今後、評価基準について考えていかないといけない。 4施設に関しては、防災拠点になっていると思うが、施設の老朽化が気になる。適時改修していただくなど、利用者だけでなく、いざという時に、市民が利用するという視点でお金をかける部分はかけないといけないと感じた。
委員	職員の方が、熱心に取り組んでみえて、新しい取り組みもされている。太平児童センターのなないろひろばについて、障害児施設と連携し、障がい、発達に関する情報を情報共有され、子育て支援をされてみえると思う。若い親は、インターネットなどから情報をたくさん得ているが、人との触れ合い、子育ての先輩から実体験を聞く機会が減っている。情報連携しながら、実体験のある事業展開をされていることは、素晴らしい。 多世代交流は各センターで取り組んでみえ、老人クラブも多世代交流を進めており、児童センターとボッチャで交流会をしている。児童センターまで行って実施することは難しい。地域の単位クラブなど地元の集会所でもやりたいので、用具購入の助成や用具の貸し出しがあるとよい。eスポーツなども同様である。
委員	総合福祉センターは、週2、3回行っているが、大変きれいに整備されている。 イベントの連絡で各施設にメールをすることもあるので、対応を願う。 総合福祉センターは、月に何回か行っている。障害者福祉センターは、様々な取り組みをされていてありがたい。 ボッチャについては、社会福祉協議会で用具の貸し出しがある。また、地域でひまわりサロンに登録し、毎月実施すれば、補助があるので利用すると良い。
指定管理者	総合福祉センターは、全体としてよく取り組んでいる。 サンホーム滝呂の利用者減少の理由は何か。新しい住宅地とセンターまでの距離はあるが、少子高齢化で人口が減っているのはどこも同じである。 ふれあいセンター姫は、人口が減っている中、よく取り組んでいる。移動老人センターも含め、大変だと思うが今後も継続していただきたい。 かさはら福祉センターについて、利用者は増加しているが、自主事業がないのはどうしてなのか。 先程お話のあったメールに対しては、速やかに対応する。 サンホーム滝呂の利用者減少について、滝呂小学校は、前年より児童が

40名減少している。また、近隣の保育園は、人数が増加し、幼稚園は、人数が昨年の半分になった。老人センターの利用減について、地域や仕事で活躍されてみえる方が多く、老人センターで余暇活動を楽しむよりは、働いて収入を増やす方が多いのが原因という印象である。また、車での移動が難しくなると、老人センターからデイサービスの利用に移行される方が多いという印象である。バスの本数も少なく、バス停も少し離れているので車を手放されるとお越しになるのは難しいと思われる。

新たな取り組みとして、eスポーツの体験を実施した。利用者増に繋がるとよい。

かさはら福祉センターは、福祉事業を全般に行っているので、福祉以外で自主的に行った事業はない。高齢者の教室に力を入れており、利用人数も増加してきている。

委員

乳児宅へ訪問すると、子どもが1歳になったら保育園に預けたい方がほとんどであり、児童センターの乳幼児クラブは人数が集まらない。滝呂の児童センターに行かない理由としては、車を利用すると笠原児童館までの距離が変わらないこと、笠原児童館は新しくエアコンがあるため、車のある母親は、ほとんどが笠原児童館を利用されている。滝呂小学校区は、少子化が進んでおり、また、両親が共働きで放課後を学童で過ごすことが多いかと思う。もうすぐ夏休みであり、子どもたちもセンターに来館するので、イベント等で盛り上げていただきたい。

委員

新しい取り組みをたくさんしていただいております。例えば老人福祉センターについて、昔は将棋などであったが、eスポーツなど年代が変わるとニーズも変わってきていると思う。ニーズ把握の努力は、どのようにしているのか。

指定管理者

各教室でアンケートを実施しているが、何をやれば利用者が増えるか、常に探りながらやっている。将棋、麻雀など旧来の利用者のニーズと新たな利用者のニーズに対応できるものを並行してやっていきたい。eスポーツは、今まで総合福祉センターのみだったが、サンホーム滝呂やふれあいセンター姫でも体験会を実施し、ふれあいセンター姫は、9月からの教室開催に向けて準備している。また、昨年度は、プラモデル教室、ロックを聴く会を実施した。ニーズ把握には、我々も苦労している。

委員

児童センターで午前から来館する不登校児に対応されていると前の館長から聞いた。不登校児も多いが、センターでの対応はどうか。

指定管理者

今年度は、対象児童が午前からセンターに来館することはない。下校後に友達と一緒に来館し、皆で楽しそうに遊んでいる。学校の先生と連携して対応していく。

委員

陶都中学校では、不登校児に対して、ソファを置くなどして居心地の良い場所を作られている。

委員長

児童センターと学校が連携してより良い取り組みが進められるとよい。

ニーズ把握について、先程委員からも質問があったが、例えばかさはら福祉センターは、麻雀教室を増設するなどして利用者が増えているが、そのような時のニーズ把握は、どのようにしていたのか。

指定管理者

各教室でアンケートを取ったが、一番効果が大きいと感じるのは、参加者自身が楽しかったという経験を友人に伝え、友人をセンターに連れてきてくれることである。地域のネットワークが広がっている印象である。

委員長	ロコミ、人伝い、連携は大変効果がある。
委員長	他に質問はないか。
	(質問なし)
委員長	他に質問がないようなのでこれで質疑応答は終了とする。指定管理者は退席願う。
指定管理者	(指定管理者退席)
委員長	それでは、4つの施設について、評価を行う。
	(評価の全体審議は、非公開)
	(評価の決定)
委員長	これにて、令和8年度第1回福祉施設指定管理者選定及び評価委員会を終了する。